

2023年度 北海道大学大学院  
文学院修士課程入学試験（前期）

試験区分	<input checked="" type="checkbox"/> 一般入試 <input checked="" type="checkbox"/> 外国人留学生特別入試 <input type="checkbox"/> 社会人特別入試（後期のみ）
試験科目名	専門試験（映像・現代文化論研究室）
出題の意図	問題Ⅰ 日本近現代文学・思想および映像・表象文化の理論と歴史についての基礎知識を問う。 問題Ⅱ A 日本近現代文学・思想に関して、病のメタファーを中心として読解能力および論述能力を問う。 B 映像・表象文化に関して、撮影および編集の技術を中心として読解能力および論述能力を問う。

2023年度  
北海道大学大学院文学院修士課程入学試験問題（前期）  
（専門試験） 映像・現代文化論 全6枚のうち1枚目

この試験では、試験問題 6 枚、解答用紙 4 枚を配付する。

- ・ 解答は問題Ⅰと問題Ⅱについて、別々の解答用紙に記入すること。
- ・ 問題Ⅱは、A・Bの中から一つを選んで解答すること。

問題Ⅰ

次の1～6の中から二つを選択し、選択番号を明記した上で解答しなさい（各400字程度）。

1. 硯友社の文芸が日本文学において果たした意義と問題点を論じなさい。
2. 大正期の文芸とアナキズム思想との関わりについて、作家・作品名を複数挙げて述べなさい。
3. 「戦中派」の作家または思想家を一人挙げ、その戦争体験が持つ意味について論じなさい。
4. サイレント映画からトーキー映画へ、俳優の演技がどう変わったのか、具体例を挙げて述べなさい。
5. ハワード・ホークスの映画について、その特質を複数の作品を挙げて説明しなさい。
6. 溝口健二作品における「ワンシーンワンショット」の効果について、具体的な場面を複数挙げて論じなさい。

問題Ⅱ A

次の文章は、堀井一摩『国民国家と不気味なもの——日露戦後文学の〈うち〉なる他者像』（新曜社、2020年）の第八章「社会主義という「伝染病」——山県有朋「社会破壊主義論」と大逆事件」の一節である（設問の都合により、一部を省略した）。（1）この文章の内容を要約しなさい（250字程度）。（2）下線部「伝染病のメタファー」について、日本近代文学に即し、具体例を挙げながら論じなさい（800字程度）。ただし、研究計画書で取り上げた作家・作品との重複はできるだけ避けること。

\*問題本文は著作権上の理由からこのホームページに掲載することはできませんので、下記の出典箇所を参照するか、文学事務部教務担当の窓口で閲覧してください。

堀井一摩『国民国家と不気味なもの——日露戦後文学の〈うち〉なる他者像』（新曜社、2020年）  
221-227 ページ





問Ⅱ B

次の文章は、吉田眸『ドアの映画史』（春風社、2011年）の一節である（設問の都合により、一部を省略した）。（1）この文章の内容を要約しなさい（250字程度）。（2）下線部「経済的な語り」に帰順しないでそれからはみだす要素」について、問題文中の具体例以外の作家・作品名を挙げながら論じなさい（800字程度）。ただし、研究計画書で取り上げた作家・作品との重複はできるだけ避けること。

\*問題本文は著作権上の理由からこのホームページに掲載することはできませんので、下記の出典箇所を参照するか、文学事務部教務担当の窓口で閲覧してください。

吉田眸『ドアの映画史』（春風社、2011年）

78－84 ページ

